

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年5月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋なす JAめぐみの就農塾

5月9日に、関市小瀬の夏秋なす生産者ほ場で、就農塾（夏秋なすコース）が開催され、5名の受講生が出席した。

今回は、圃場準備と定植についての研修を行った。JAめぐみのと農業普及課が講師となり、植え付けや支柱たての実技を通して、作業のコツや注意事項について指導した。受講生は、実技や講師の説明に対し、活発に質問するなど熱心に取り組んだ。

農業普及課では、継続して就農塾開催を支援するとともに、受講生を就農に導いていく。

（地域支援係）



【作業の様子】

■円空さといも JAめぐみの就農塾

5月10日、関市内のさといも生産者ほ場で、就農塾（さといもコース）が開催され、3名の受講生が出席した。

今回は、マルチの上にさといもの芽を出す作業と除草について研修を行った。さといも生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、実際に芽出し作業を行いながら、マルチの役割などについても指導した。受講生は積極的に質問しながら作業を進めた。

農業普及課では、継続して就農塾開催を支援するとともに、受講生を就農に導いていく。

（地域支援係）



【作業説明】

■米作り 小学生米作り体験学習

5月17日、美濃市立大矢田小学校5年生を対象とした米作りの学習が開催され、米の作り方や地域稲作の特徴、米を取り巻く状況などについて農業普及課が授業を行った。

児童らは、水稲にも病気があることや美濃市が米の種子産地であることを初めて知り驚いた様子であったが、「農家さんが一生懸命栽培したお米をもっと食べていきたい」と、声をそろえていた。

同小学校では、毎年「総合的な学習の時間」の取り組みとして、地域の農家等の協力のもと、5年生が田植えや稲刈り体験を行っている。

農業普及課では、未来ある児童に農業を身近に感じてもらい、理解を深めてもらえるよう、関係機関と連携して食育活動にも取り組んでいく。

（地域支援係）



【講義】

■経営戦略会議 農事組合法人美濃種子の経営発展を目指して

5月15日、中濃総合庁舎別棟会議室にて、ぎふアグリチャレンジ支援センター、美濃市、JAめぐみのを招集し、農事組合法人美濃種子の経営強化のため「経営戦略会議」を開催した。

美濃市は、県下最大の水稲種子生産地であり44名の農業者により種子生産が続けられてきたが、近年、高齢化と担い手不足等により安定した産地維持に不安の声が出始めたことから、担い手組織として農事組合法人美濃種子が令和2年に設立された。

しかしながら、法人の運営や受託地の円滑な作業推進、経営管理



【経営戦略会議の様子】

などにおいて十分な議論が進んでおらず、農業普及課としては今こそ支援の強化が必要であると考え、協議の場を設定した。

出席の各機関からは、設立当初からの課題や現状の問題点、将来あるべき姿など幅広く意見がだされ、継続して協議していくこととなった。

(地域支援係)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 赤かび病発生状況調査

中濃管内では、農業法人や個別農家等が、小麦「さとのそら」を約230ha 栽培している。4月上中旬には出穂期を迎え、生産者らは開花期に合わせて赤かび病の適期防除に取り組んだ。

農業普及課ではJAめぐみとの連携し、最近の天候を考慮して適期防除の実施の徹底を指導したのち、5月8日には赤かび病の発生状況の調査を実施した。今年は、開花期以降に降雨が多く高温であったため、赤かび病の多発が心配されたが、生産者の適期防除実施により、最低限の発生で収まっている様子であった。

今後は、生育状況を確認しながら、適期収穫について、JAめぐみとの連携して生産者への情報提供に努め、良質な小麦生産を支援していく。

(地域支援係)



【赤かび病発生状況調査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 受粉に備えて

JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会では、受粉作業をスムーズに行うため、事前に不要な新梢の芽かきや誘引、ほ場の下草刈りを行っている。

開花時期は昨年と同時期と予想しているが、気象予報によるとその頃に雨が多くなるため、受粉効率が落ちるだけでなく病害の発生も心配される。

農業普及課では、上記のように圃場内環境を整えることで病害の発生しにくいほ場作りを指導し、耕種的防除を主体とした対策を推進している。

(地域支援係)



【誘引作業】